

令和 5 年 度

市長所信表明

令和 5 年相模原市議会第 2 回定例会
6 月定例会議

本日ここに、市政運営に当たる私の基本的な考え方を申し上げる機会を得ましたことは、誠に光栄であるとともに、身の引き締まる思いであります。

百年に一度の危機と言われるコロナ禍は世界的に猛威を奮い、パンデミックの脅威は、私たちの暮らしや社会・経済活動に多大な影響を及ぼしました。この三年余りの人智の限りを尽くしたウイルスとの戦いは、医療従事者をはじめ、多くの方々の長きにわたる懸命の努力により、今、ようやく「新しい日常」のもと、希望を取り戻しつつあります。折しも、「勝風」と描かれた大風が相模川の上空を4年ぶりに舞い上がり、市民若葉まつりでは子ども達の喜ぶ姿や多くの皆さまの笑顔に出会うことができ、この新緑の季節とともに、市民、地域の皆さまの様々な活動が再開を始めていることに、改めて市民皆さまの希望と、相模原市の力強さを感じているところです。

私は、このたび市民の皆さまからの負託を賜り、2期目の市政を担うこととなりました。改めて、市長としての責務を重く受け止め、課題に果敢に挑み、市民の皆さまと、共に新しい時代を切り拓く決意をもって市政運営に邁進してまいります。

1期目を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症への対応や令和元年東日本台風への対応など、前例のない不測の事態に見舞われました。

感染症対策では、目まぐるしく変化する局面ごとのニーズ把握と即応が求められ、台風対応では、長期間にわたる人命救助活動を目のあたりにして、改めて、72万市民の皆さまが「家族」であり、「誰一人取り残さない」という決意を胸に刻みました。

このような中においても、市民の安全と安心を第一に、様々な事態に

対し、全力で取り組んでまいりました。

また、本市の明るい将来を実現するために、引き続き行財政構造改革に強い決意で臨むとともに、シビックプライドの醸成やSDGsの推進、脱炭素をはじめとする環境施策を充実するほか、本市の重点テーマである少子化対策や雇用促進対策、中山間地域対策など、次代につながる取組を進めることができたものと考えております。

さて、我が国では、子どもの数が前年より30万人少なくなり、42年続けて減少しております。

少子高齢化が進行する中において、将来に向けて、安全で安心して暮らせる社会の実現に向けた取組が必要であると考えております。

こうした中、今後も、「相模原」というまちを大きく育み、子ども達の笑顔が輝き、未来に希望を抱くことができる「幸せ色あふれるまち」を実現するために、引き続き「子育て」、「教育」、「まちづくり」に重点を置いた取組を進めてまいります。「すべての人に！」を合言葉に、多様性を尊重しつつ、「誰一人取り残さない」という決意を持って、様々な取組を進めることで、皆さまから「子育てするなら相模原」、「教育を受けるなら相模原」、「起業するなら相模原」、「第2、第3の人生を楽しむなら相模原」と言っていただき、選んでいただけるまちとなるよう、全力を尽くしてまいります。

ここで、市政運営に当たる私の基本的な考え方について、3点申し上げます。

1点目は「すべての人に開かれた市政」についてであります。市政運営を行うに当たり、何より大切にしなければならないことは、市民の皆さまに市政を身近に感じてもらうこと、そして、共に市政をつく

っていくことであると考えております。私はこれまで、「対話」を通じて、市民の皆さまの本市への期待や未来への希望などの「思い」を真摯に受け止めてまいりました。その「思い」を市政の原動力に変え、相模原を更に輝くまちにし、市民の皆さまが誇りや愛着を抱き、共にまちづくりに参加したいと思えるよう、自ら先頭に立って挑戦を続けてまいります。これからも「顔の見える市長」として、72万市民一人ひとりと直接向き合い「対話」を重ねるとともに、しっかりと情報を開示し、正確な情報を速やかにお伝えすることができるよう、さらに発信力を高め、「待ち」の市政から「出向く」市政へ転換を図ってまいります。

2点目は「未来へつなぐ持続可能なまちづくり」についてであります。

少子高齢化が急速に進行することが予測される中、人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能な都市経営は喫緊の課題となっています。また、あらゆる分野におけるデジタルトランスフォーメーションの加速や、世界規模で進む脱炭素社会の実現に向けた動きなど、社会経済環境が大きく変化している状況です。こうした変化に迅速・的確に対応し、安全で安心して暮らすことができる持続可能な社会を実現することが基礎自治体には求められています。

本市は都市と自然がベストミックスする大きな魅力を持つ都市であり、多くの優れた地域資源があります。こうしたポテンシャルを最大限に活用しながら、急激に変化する時代に適応し発展・進化を続けるとともに、市民の皆さまと、共に一緒に考え・創る、希望に満ちあふれた持続的なまちを目指して取組を進めてまいります。

3点目は「誰一人取り残さないまちづくり」についてであります。

子どもからシニア世代まで、あらゆる世代の一人ひとりが健康で安心してそれぞれの個性や能力を生かして暮らせることは、全ての市民の皆

さまに共通する願いであり、それに応えていくことが、市の役割の原点であると考えております。これからも引き続き、SDGs未来都市として、72万市民を「誰一人取り残さない」という決意を強く持ちながら、子育て、教育、福祉、医療、人権など、暮らしに寄り添った施策を総合的に推進するとともに、住民同士のつながりをより深め、賑わいがあり温かく活気に満ちた地域社会を維持するために、地域における支え合いの輪を広げる取組を進めてまいります。

こうした考えのもと、私がこれまで市民の皆さまからいただいた声を踏まえた、政策と取組の方向性について述べさせていただきます。

はじめに、子育て、教育についてであります。

相模原の宝である次代を担うすべての子ども達や若者達が、生まれ育った環境に左右されず夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指した取組を充実させることが重要であります。

子育ての日々の不安と悩みに寄り添いながら、子育ての楽しさを感じてもらえるよう、子育て世代を応援するための条例の制定に向けて取り組むとともに、子育てを社会全体で支える取組を進めてまいります。

また、公共施設の個人利用の子ども料金の無料化や小児医療費助成を拡大するほか、子ども達が自由に遊び・学ぶことができる子どもの遊び場事業の拡充や、全天候型子どもの遊び場の設置に向けた検討を進めてまいります。

さらに、休日に理由を問わず、駅周辺で未就学児を預けることができる休日一時保育を実施するほか、働きやすい職場の環境整備に取り組む市内中小企業等を支援してまいります。

教育環境につきましては、すべての子ども達が温かい給食を食べ、食の大切さを学ぶことができるよう、全員喫食による中学校完全給食の令

和 8 年中の実施に向けた取組を進めるとともに、学校給食における地場産食材供給体制の拡充を図ってまいります。

また、不登校の児童・生徒たちに対する支援強化として、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充するなど、学校現場を取り巻く課題等の解決に取り組むとともに、すべての子ども達の考える力や探求する心を育む教育を推進してまいります。

さらに、一人ひとりの学びを支援し、知への関心や興味に応えられるよう、図書館の機能強化に向けた取組を進めるほか、子ども達の宇宙への興味や関心、あこがれを大切にするために、博物館のプラネタリウムを更新するなど宇宙教育の充実を図ってまいります。

次に、起業、産業支援についてであります。

本市には、J A X A 相模原キャンパスが所在し、ロボット分野などにおいて高度な技術を持つ中小企業が集積するなど大きなビジネスチャンスがあります。夢を抱き挑戦するすべての方を応援するため、起業家育成に積極的に取り組むとともに、時代を牽引する人や企業が集い、新たな価値を生み出すイノベーション創出促進拠点の整備や運営を支援いたします。

また、さがみロボット産業特区であることの強みを生かし、今後のロボット産業、航空宇宙産業の市場規模拡大の見込みも踏まえ、こうした産業等の支援や集積に取り組み、「ロボットのまち」の具現化に向けて取組を進めてまいります。

さらに、私自らのトップセールスによる研究機関などの誘致活動を進めることで、地元産業との効果的な連携に取り組むとともに、市内企業への優先発注や中小零細企業育成支援策を強化いたします。

観光振興につきましては、相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖などの 5 つの湖や広大な森林が育む清流、市役所さくら通りをはじめ各地で咲き誇る

桜、JAXA相模原キャンパス、相模の大凧まつりをはじめとした地域の方々による様々な観光行事など、魅力あふれる多様な観光資源を広く内外に情報発信するほか、緑区の地域資源を生かした道の駅の開設に向けた検討を進めるなど、来訪者の更なる増加に結びつけてまいります。

次に、活力あるまちづくりについてであります。

市民の皆さまが誇りを持ち、そして誰もが暮らしやすい豊かなまちをつくるためには、魅力ある都市拠点の形成が必要となります。

まず、リニア中央新幹線の駅整備が進む橋本駅周辺については、多くの方が降りたくなる、訪れたいくなるまちとなるよう、相模原駅周辺については、インフラをゼロから整備するという自由度の高さを生かし脱炭素型のまちとなるよう、取組を進めてまいります。

また、麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業については、産業を中心とした新たな拠点としてのポテンシャルが高いことから、一日も早い事業完了に向けて取り組んでおり、令和7年度から11年度に整備工事を実施してまいります。

加えて、淵野辺駅南口周辺の公共施設再整備については、市民の皆さまに愛される複合施設及び鹿沼公園となるよう、整備・リニューアルに向けた取組を進めてまいります。

スポーツ・文化につきましては、子ども達も気軽に利用できるスケートボード施設を相模原麻溝公園内に整備するとともに、本市ゆかりの多くのアスリートを支援するため、より高度な技術習得に向けた練習環境として小山公園ニュースポーツ広場をリニューアルいたします。

また、相模総合補給廠共同使用区域に整備を進めている相模原スポーツ・レクリエーションパークを令和6年4月に全面供用開始するとともに、市を挙げて地元スポーツチーム等を応援する体制を充実してまいります。

さらに、将来にわたり文化を振興し、確実に継承・発展を図るために、市民の文化振興の拠点づくりに向けた検討をいたします。

次に、健康、福祉についてであります。

人生100年時代と言われる今日、シニア世代が輝き、行動をより楽しく自由にし、まちの中でいきいきと活動していただくことは、地域のつながりや、賑わいと活力を維持することにもつながります。そのため、地域の実情に応じた効果的な生活圏域移動手段の導入・充実を図るなど、高齢者等の健康増進と生活支援を推進してまいります。

また、中山間地域をはじめとする市民誰もが住み慣れた地域で安心して医療サービスが受けられるよう、持続可能な医療提供体制の構築に向けた検討や取組を進めてまいります。

少子高齢化、核家族化など近年の社会構造の変化に伴う課題として、いわゆる老老介護や8050問題、ヤングケアラー問題などがあります。こうした課題へ対応していくため、分野横断的な支援体制を充実するとともに、新たなサポート制度の創設の検討も進めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症への対応などから、これまでとは異なる福祉と医療の連携が求められており、こうした課題にも着実に対応するため、各分野の連携を強化するとともに、新たな形の支援体制の構築を図ってまいります。

市民の健康づくりにつきましては、本年4月に施行した相模原市健康づくり推進条例に基づく取組を着実に推進してまいります。

次に、災害、安全対策についてであります。

首都直下地震や南海トラフ地震が30年以内に発生する確率は、70%程度と言われているほか、全国各地において相次ぐ集中豪雨などにより、甚大な被害が発生しております。本市においても、令和元年東日本

台風によって8人の尊い命が奪われ、市内各所に甚大な被害がもたらされました。災害に強いまちづくりは喫緊の課題となっており、日ごろからの災害への備えこそが万一の時に命と生活を守る切り札となるため、市民生活を脅かす突然の災害への備えを加速・充実するよう、災害対応におけるスーパーバイザーの導入に向けて取り組んでまいります。

また、令和元年東日本台風で改めて森林保全の重要性を再認識したことから、国・県、民間企業等との連携をさらに強化し、実効性のある森林保全施策を推進いたします。

暮らしの安全対策につきましては、本年4月に施行した相模原市犯罪被害者等支援条例に基づく支援策を推進するとともに、防犯カメラの設置促進、自転車運転マナーの向上をはじめとした防犯・交通安全対策の取組を引き続き進めてまいります。

次に、環境対策についてであります。

本市にあふれる豊かな自然は貴重な財産であり、この財産を次代に引き継いでいくために、生物多様性を育む豊かな森林や、津久井地域を中心とした水源の保全に努め、安らぎと潤いのある、人と自然環境の共生に関する条例の制定に向けて取り組んでまいります。

また、さがみはら気候非常事態宣言に基づき策定したさがみはら脱炭素ロードマップを強力的に推進するため、持続的な環境を推進するための都市宣言をするなど、取組を進めてまいります。

さらに、さがみはら津久井産材を燃料とした木質バイオマスボイラーの導入や小水力発電などの新たな地域電力事業の検討を行うなど、地域資源の活用により地域循環共生圏を形成し、脱炭素社会への移行を目指した実効性ある取組を推進してまいります。

加えて、国・県や周辺自治体と連携し、民間企業等の知見を取り入れるなど、中山間地域の環境保全を具体的に検討する体制を整えるとともに

に、豊かな自然を将来まで守り・育てるために同様の課題を抱える都市と連携するためのサミットを開催するなど、都市近郊の森林のあるべき姿を検討いたします。

次に、多様性が尊重される社会の実現についてであります。

誰もがありのままの自分で生きることができる、そしてありのままの自分が受け入れられる社会を実現する、このことが市民の皆さま一人ひとりの幸せにつながるものと考えております。年齢、国籍や民族、疾病や障がいの有無、性自認などの様々な事由による不当な差別を解消し、一人ひとりが、かけがえのない個人として尊重され、お互いの人権を認め合う、共生社会の実現に向けて、(仮称)相模原市人権尊重のまちづくり条例を制定いたします。

また、あらゆる差別のない社会をつくるために、市設置の審議会等へ多様性の視点を盛り込んでまいります。

次に、行政サービスの充実についてであります。

将来にわたり市民の皆さまの利便性向上と、行政事務の効率化を推進するために、行政窓口でのキャッシュレス支払いサービスの本格導入やSNSの利便性を最大限に生かした行政サービスの提供にチャレンジするほか、相模原の未来を展望したDXの推進に関する条例の制定に向けて取り組んでまいります。

さらに、高齢者や障がいのある方が遠方まで足を運ぶことなく、各種行政手続を行うことを可能とするシステムの構築を進めるとともに、中山間地域が抱える課題の対応についても、デジタル技術の活用などを検討してまいります。

また、団体、企業、大学、NPOなど多様な主体との連携を深め、様々な課題の解決に向けて取り組むとともに、多分野、多世代の方に政策提

言いただけるような仕組づくりについても検討を進めてまいります。

さらに、地区まちづくりを考える懇談会やまちかど市長室でいただいたご意見やご質問への対応状況の見える化を行い、市民の皆さまに広くお示しいたします。

また、多様な大都市制度の早期実現に向け、特別市の法制度化について、機運醸成等に取り組むとともに、周辺自治体等との協力強化など、都市間連携の充実に努めてまいります。

次に、シビックプライドについてであります。

本市は全国で初めてシビックプライドを冠した条例を制定いたしました。本市に関わりを持つすべての人が、相模原市を愛し誇りに思う、そのような気持ちを大切にして、これからの相模原づくりに臨んでまいります。そのために、全国から本市を応援していただける方を「パートナー」として募るなど、できるだけ多くの方に興味を持ってもらえる取組を進めることで、シビックプライドの向上、醸成に努めてまいります。

また、本市のシビックプライドにも大きく貢献していただいている JAXA の取組を応援するために、個人や企業、団体が遊び心を持って集う会議を新たに設置いたします。

ここまで、政策等について述べさせていただきましたが、冒頭にも申し上げたとおり、私は、「すべての人に開かれた市政」ということが基本であると考えており、この考えは決して変わることはありません。今後も「顔の見える市長」として、市民の皆さまとの「対話」を大切にしながら、真摯に、誠心誠意取り組んでまいります。

また、開かれた市政に向けては、職員一人ひとりの取組が重要であることから、意識改革や風通しのよい職場づくりにも努めてまいります。

結びとなりますが、私は、市民の皆さま一人ひとりの幸せのため、そして市民の皆さまが誇れる相模原をつくるため、全身全霊を傾け、この職責を全うしてまいります。

市政の推進に当たりましては、少子高齢化の一層の進行や、それに伴う厳しい財政運営など、幾多の困難に直面することが想定されます。そのため、引き続き中長期的な視点で行財政構造改革に取り組み、前例踏襲に陥ることなく、積極果敢にチャレンジする勇気が求められています。希望を持って挑戦を続けることで、次代に向けた「礎」を作り上げ、そして、「相模原」というまちを大きく育み、これからの未来にはばたく子ども達や若者達に、希望のタスキをつないでまいります。

本市の輝かしい未来を切り拓き、「ワクワクするさがみはら」の実現に向け、英知を結集し、本市に関わる「すべての人」の手でまちづくりを進めてまいりましょう。私は、市民の皆さまと思いをひとつに、この挑戦の先頭に立ってまいります。

最後に、議員の皆さま方のご指導、ご協力を賜りますよう切にお願いを申し上げ、所信の表明とさせていただきます。

ご清聴まことにありがとうございました。